

令和 6 年度実績報告に対する意見書（案）

1 総合意見

令和 6 年度は、「第 4 次柏市男女共同参画推進計画」の策定に向け審議を行い、令和 4 年度に実施した市民意識調査の結果や社会状況の変化から課題を整理し、基本目標や具体的な施策を改めて見直す機会となった。

第三次柏市男女共同参画推進計画策定から 9 年が経過し、全体として市民や市職員の意識の変化がみられる一方、依然として目標値を達成していない指標等も存在している。

今後は、第 4 次柏市男女共同参画推進計画を基に「多様な生き方を認めあい 個性を生かせるまち柏」の実現に向けてより効果的に施策の推進を図るよう要望する。

2 各課題についての意見

(1) 女性の活躍促進について

市の女性管理職の割合については、令和 5 年度より割合が減少しているが目標値は達成しており、計画策定時と比べると大幅に増加している。女性職員の活躍をテーマとした管理職意見交換会を開催するなど、女性職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいることは評価できる。

一方、附属機関で女性委員が 35%以上の割合と防災推進員における女性の割合は目標値に近づいていない。代表職への女性の参画が進むことで、女性視点での考え方や多様なスキルが取り入れられ、組織の意識改革の促進が見込まれるため、今後も積極的に女性の活躍に向けた働きかけを行っていただきたい。

(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

保育園等の整備による利用定員の増加がみられた点や、こどもルームの受け入れ児童数の枠の拡大が図られた点などは評価できる。また、市が取り組んでいる子育てに関するサイトや SNS を活用した情報発信なども今後継続して実施していただきたい。

また、雇用における女性の参画促進のためには、育休から職場

復帰する女性等への支援や男性の家事育児の参画の推進を行う必要がある。

引き続き、関係部署や企業等と連携をとり、男女が平等に仕事と生活を両立できる環境づくりに向けた積極的な取り組みを検討していただきたい。

(3) 男女共同参画（ジェンダー平等）を目指す教育・学習の推進

男女共同参画社会の実現に向けた教育・学習の推進をしていくには、性別にとらわれない個性を尊重した教育や指導が必要になる。そのために、男女共同参画に関する研修を全ての教職員が受講できる体制を整備していることは評価できる。

多様性を認め合い、誰もがいきいきと生きることができる社会のために、幼少期の段階からひとり一人の個性を尊重した意識啓発を行っていくことを期待する。

(4) 人権に対する配慮

相談したいと思った時に適切な相談を利用できるよう、相談窓口の周知を図っていくことが必要である。相談内容は多岐にわたり、相談機関も多くあることから、関係機関と連携し、適切な場所に繋げることが求められる。

また、DVの防止のためには、より早い段階で啓発をすることが有効であると考えられることから、市内中学校におけるデートDV防止教育プログラムを引き続き実施し、ひとり一人が互いに平等で、尊重される社会に向けた環境づくりに取り組んでいただきたい。

(5) 推進体制

男女共同参画に関する施策は分野が幅広く多岐にわたるため、庁内の各部署が意識的に取り組むことが必要である。

そのため、今後は新たに策定した第4次柏市男女共同参画推進計画に基づき関係各課と連携をとりながら、施策の推進を図っていただきたい。